



遺跡が確認された唯一の「鴻臚館跡」^{こうろかん}

中央区・舞鶴公園内の「鴻臚館跡」は、2004年(平成16年)指定の国史跡です。舞鶴公園は、この他に国指定史跡の「福岡城跡」もあり、全国初の国史跡二重指定エリアという歴史的価値が高いスポットとして知られています。

福岡市では、2014年(平成26年)から隣接する大濠公園(福岡県管理)との一体的な活用を図り、市民の憩いの拠点をつくる「セントラルパーク構想」を設定しており、鴻臚館跡でも歴史・文化の発信拠点に向けた整備が進められています。今回は、鴻臚館の歴史をはじめ、整備・活用状況についてご紹介します。

※この誌面は、福岡市経済観光文化局文化財活用部提供の資料をもとに当所で作成しています。

大陸との外交・交易を支えた玄関口

鴻臚館は、7世紀後半～11世紀中頃(飛鳥・奈良・平安時代)の外交施設です。688年(朱鳥3年)の史料に「筑紫館」として記されて以降、約400年にわたって対外交渉の窓口として重要な役割を担いました。

主に中国大陸や朝鮮半島からの使節団の迎賓館として活用されていたほか、遣唐使や遣新羅使が出入国時に宿泊する施設でもありました。阿倍仲麻呂や吉備真備、空海や最澄など、歴史に名を残す人物たちが鴻臚館を利用しました。同様の施設は、平安京(京都)と難波(大阪)にも設けられていたといわれていますが、唯一、遺跡が確認されて国指定史跡となっているのは筑紫の鴻臚館だけです。

さらに、8世紀中頃からは、新羅との関係悪化によって博多湾の防衛という国防機能も担っていたといわれています。

施設の名称は時代とともに何度か変更がなされています。「鴻臚館」の名は、平安時代に嵯峨天皇が建物の名を唐風に改めるようになった際、中国・唐の外交を司った「鴻臚寺」に倣って付けられました。



▲9世紀の鴻臚館のイメージ(提供：福岡市)

鴻臚館に延泊する使者たち

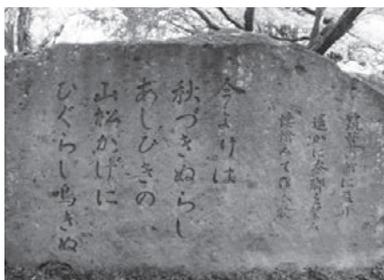
古代の船には動力や羅針盤がなかったため、風だけを頼りに命懸けで航海していました。出入国する使者たちは、良い風を待って数十日を鴻臚館で過ごすこともあったといわれています。



マメ知識

■焼失した鴻臚館の発見

1047年(永承2年)の放火記録を最後に、鴻臚館は文献上から姿を消しました(※諸説あり)。鴻臚館は、江戸～大正時代まで博多官内町(現・博多区中呉服町)にあったと考えられていましたが、大正時代に京都帝国大学福岡医科大学(現・九州大学)の中山平次郎教授が福岡城内に存在したと唱えます。中山教授は、遣新羅使が詠んだ万葉集の歌をヒントに「蝉が鳴いて松が生えている山」で「志賀島が眺望できる」場所は福岡城跡ではないかと考えたからです。当時、軍の施設となっていた福岡城跡は博多どんたくの2日間だけ唯一解放されており、中山教授は1915年(大正4年)の解放日に古代の瓦や中国陶磁器を採集し、自説を確信します。中山教授の死後30年経った1987年(昭和62年)、平和台球場の改修に伴う発掘調査で遺構が発見され、その説が裏付けられました。



▲舞鶴公園内にある万葉歌碑(出典：鴻臚館HP)



▲平和台球場での発掘調査(提供：福岡市)



◀鴻臚館跡の建物平面図(提供：福岡市)



▲北館東門の位置から見る現在の鴻臚館広場(提供：福岡市)



鴻臚館発見のキーパーソン

中山 平次郎 ー九州考古学の先駆者ー

中山平次郎は、医学者でありながら考古学にも精通し、大正～昭和初期にかけて功績を残しています。

1871年(明治4年)生まれで、幼い頃に人類学者・坪井正五郎の弥生町貝塚(東京都)に関する報告書に触れ、考古学に関心を持ちます。しかし、代々医師の家系であったため、考古学の道には進まず、東京帝国大学医科大学に進学しました。やがて、1906年(明治39年)に京都帝国大学福岡医科大学(現・九州大学)の教授に赴任したことを転機に、九州の考古学にも深く関わることになりました。

調査手法が十分に確立されていない当時の九州考古学は、中山平次郎の独壇場となり、現代で当たり前認識されている福岡地方の歴史を数多く紐解きました。

功績1 「中間期間(弥生時代)」の提唱

1917年(大正6年)、石器時代と古墳時代の間に「石器と金属器が共存する中間期間」があることを板付遺跡などの研究から提唱しました。後にその期間は「弥生時代」と呼ばれるようになります。

功績2 「金印」出土地の推定

江戸時代に発見されて以降、様々な説が唱えられていた金印の出土地について、志賀島で現地調査等を行い、場所を推定しました。

功績3 「元寇防塁」の名付け親

1913年(大正2年)に「石築地」と呼ばれていた石垣群を「元寇防塁」と名付けたほか、九州大学内での防塁位置を推定しました。2016年(平成28年)からの箱崎キャンパス移転に伴う発掘調査では、推定場所から遺構が次々と発見されました。

市民の憩いの場を目指した取組み

鴻臚館跡には、発掘当時のまま残された遺構や調査の出土品、一部が復元された建物などを見学できる「鴻臚館跡展示館」が設置されています。

現在、この展示館を中心に古代の門や塀を復元整備することを通じて、歴史を追体験しながら憩うことのできる空間の整備・活用の検討が進められています。

鴻臚館跡の整備イメージ
(提供：福岡市)▶



空間の整備

2022年度(令和4年度)までには展示館の遺構修復や外壁改修が行われ、今年度は北館東門や塀の復元に向けて検討が行われています。

また、2023年(令和5年)10月には、展示館に隣接する高等裁判所の跡地に大型バスも受け入れ可能な駐車場が新たに整備されました。災害時には避難場所としても活用される予定で、防災拠点の役割も担います。



▲整備された駐車場(出典：鴻臚館HP)

古代を感じるイベントの企画

鴻臚館への理解を深めたり、交流拠点としてにぎわいを創出したりするため、展示館では古代を感じるお香づくりワークショップや古代衣装の体験会などが企画されています。さらに、鴻臚館で賓客にふるまわれていた「おもてなし料理」の復元メニュー試食イベント(福岡市とNPO法人の共働企画)なども開催されています。おもてなし料理は古代に存在したとされる食材を使用して開発されており、継続的な事業化を目指して協賛企業の募集なども行われています。



▲復元した「おもてなし料理」
(提供：福岡市)



▲古代衣装の体験会
(提供：福岡市)

注目 鴻臚館跡展示館

- 場所 福岡市中央区城内1
- 開館時間 9:00～17:00
- 休館日 年末年始
- 入館料 無料



記事に関するお問い合わせ / 企画広報グループ TEL : 092-441-1112

鴻臚館跡に関するお問い合わせ / 福岡市文化財活用部 史跡整備活用課 TEL : 092-711-4784